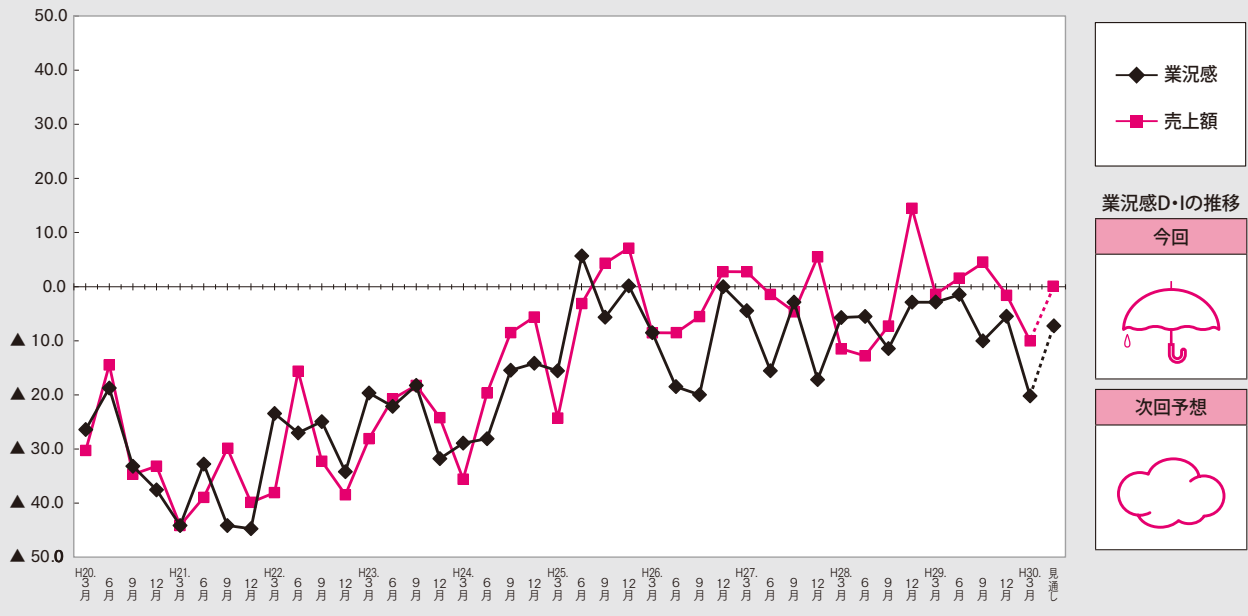


小売業

Retail trade

業況感悪化

D・I推移グラフ(小売業)



1 今期 (平成30年1 - 3月期)

業況感は▲20.3 (前期▲5.7) となり、14.6ポイント悪化した。売上が8.6ポイント、収益が14.3ポイント悪化し、販売価格は8.6ポイント上昇したものの、仕入価格が7.1ポイント上昇し、資金繰りも9.9ポイント悪化した。人手、設備の不足感も強まっている。

2 来期の予想 (平成30年4 - 6月期)

来期の業況感は▲7.1と13.2ポイント改善するも、引き続きD I 値はマイナス予想となっている。売上額10.0ポイント、収益は11.4ポイント改善する見込みであるが、資金繰りは横ばいで改善されない見通し。人手、設備の不足感も同様に改善されない見通しである。

DI値の推移 (過去1年と3ヶ月後の予想)

	H29.3月期	H29.6月期	H29.9月期	H29.12月期	H30.3月期	来期見込み
業況感	▲ 2.9	▲ 1.4	▲ 10.0	▲ 5.7	▲ 20.3	▲ 7.1
売上額	▲ 1.4	1.4	4.3	▲ 1.4	▲ 10.0	0.0
収益	▲ 8.6	2.9	2.9	▲ 1.4	▲ 15.7	▲ 4.3
販売価格	4.3	4.3	0.0	5.7	14.3	4.3
仕入価格	▲ 11.4	▲ 10.0	▲ 5.7	▲ 18.6	▲ 25.7	▲ 13.0
在庫	▲ 2.9	▲ 2.9	▲ 11.4	▲ 8.6	▲ 11.4	▲ 5.7
資金繰り	▲ 11.4	▲ 8.7	▲ 28.6	▲ 10.1	▲ 20.0	▲ 20.0
人手	15.7	1.4	14.3	4.3	13.0	13.0
設備状況	11.4	11.4	4.3	1.4	5.7	8.6

業況調査メモ

2018年版九州経済白書では、1世帯当たりのネット通販購入額が10年前と比べて3.2倍に増加し、消費者の買い物目的の外出頻度は10年をピークに減少するなど、スマホの普及で拡大したネット通販が実店舗市場を侵食する現状を紹介している。こうした事情から、天文館の再開発ビルなど商業施設では、単にテナントを集めて物を売るだけでなく、体験を重視する「コト消費」の空間提供や、人々の共感を呼ぶイベント企画のような仕掛けづくりが求められる。一方、地域密着型の小売店やスーパーなどでは最近、高齢者の見守りサービスなどを付加した弁当や商品の宅配に力を入れつつある。